



第30周年記念日本脊椎・脊髄神経手術手技学会
The 30th Annual Meeting of the Japan Society for the Study of Surgical Technique for Spine and Spinal Nerves

ハンズオンセミナー2



頸椎椎弓形成術の手技選択 ～Open-DoorかDouble-Doorか～

▶ 演 者

水野 正喜 先生

三重大学 大学院医学系研究科 脳神経外科学 脊髄末梢神経低侵襲外科学講座 教授
社会医療法人 峰和会 鈴鹿回生病院 脊椎・脊髄センター長

▶ 座 長

辻 太一 先生

愛知県厚生農業協同組合連合会
豊田厚生病院 脊椎脊髄センター長 兼 脊椎外科部長

▶ 日 時

2023年9月15日(金) 9:30～10:30

▶ 会 場

ハンズオンセッション会場
(ステーションコンファレンス東京 4F 402 C)

▶ 席 数

54席(先着順) 本学術集会の参加登録を必ずお願いいたします。

▶ 参加登録方法

下記URLまたはQRコードの申込受付入力フォームよりお申し込みください。
<https://forms.office.com/r/uD6YyagPsf>

▶ 認定単位

日整会:種別 SS 分野 7 脊椎・脊髄疾患 認定番号 23-0858-005





第30周年記念日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

ハンズオンセミナー 2

頸椎椎弓形成術の手技選択 ～Open-DoorかDouble-Doorか～

三重大学 大学院医学系研究科 脳神経外科学 脊髄末梢神経低侵襲外科学講座 教授
社会医療法人 峰和会 鈴鹿回生病院 脊椎・脊髄センター長

水野 正喜 先生

頸椎椎弓形成術の代表的な手技として片開き法と両開き法の二つがあり、いずれもスペーサーを使用して椎弓形成を行うことが一般的となっている。

二つの手技の優位な点と劣位な点を把握して、手術手技を選択することが望ましい。片開き法でスクリュー固定プレートを使用すると、手術時間の短縮が得られ初期固定力に優れることから、我々は片開き法を行うことが多い。

手技で共通する注意点は、展開時に後頸部筋群を温存し閉創時に再構築すること、後頸部靭帯筋組織は可能な限り温存すること、C5麻痺を予防する観点から脊柱管の拡大は必要最小限としスペーサーも最小限のsizeを選択すること、椎間孔径が2mm以下の場合や神経根症合併例では椎間孔拡大の追加を考慮すること、硬膜外静脈叢を損傷せず術中術後出血を予防すること、などが挙げられ、安定して確実な手技を行うことを心がけることが重要である。

手術手技のポイントと注意点を提示し、手術手技を供覧する。